

自動運転トラックによる酒類・飲料の幹線輸送実証に参画 酒類・飲料業界の持続可能な輸送体制の構築を目指す

キリンホールディングス株式会社（社長 COO 南方健志）のグループ会社キリングroupロジスティクス株式会社（社長 小林信弥）は、株式会社 T2（代表取締役 CEO 森本成城、以下 T2）が 6 月 9 日（月）より開始する自動運転トラックを用いた酒類・飲料の幹線輸送※¹ 実証に参画します。

※¹ 工場で生産された商品を全国の配送拠点に主要な輸送ネットワークを通じて効率的に運ぶこと

本実証にはアサヒロジ株式会社（社長 児玉徹夫）、サッポログループ物流株式会社（社長 服部祐樹）およびサントリーロジスティクス株式会社（社長 高橋範州）の酒類・飲料の物流子会社 3 社も参画（以下、キリングroupロジスティクス株式会社とあわせて「4 社」）します。4 社は、関東から関西までの高速道路の往復路で製品の容器・重量を変えてそれぞれが幹線輸送し、自動運転トラックによる輸送の有効性と具体的なオペレーションを T2 と検証します。



「物流 2024 年問題」を背景にトラックドライバー不足が深刻化し、2030 年には輸送能力の 34.1%が不足する可能性が指摘※² される中、T2 は 2027 年からレベル 4※³ 自動運転トラックによる幹線輸送の開始を目指しています。レベル 4 自動運転トラック（無人）の場合、1 日最大 15 時間と定められているドライバーの拘束時間と無関係に運行が可能のため、ドライバー 1 人あたり 1 日 1 運行（片道）が限界※⁴ だった現状の輸送能力を、将来的には 2 倍（往復）まで高めることができると見込んでいます。

※² 経済産業省開催「第 3 回持続可能な物流の実現に向けた検討会」における「「物流の 2024 年問題」の影響について」

株式会社 NX 総合研究（https://www.meti.go.jp/shingikai/mono_info_service/sustainable_logistics/pdf/003_01_00.pdf）

※³ 特定の走行環境条件を満たす限定された領域において、自動運行装置が運転操作の全部を代替する状態

国土交通省（<https://www.mlit.go.jp/common/001226541.pdf>）

※⁴ 東京－大阪間の高速道路の運行に 6 時間がかかると想定した場合

酒類・飲料業界は、他業界に比べて輸送量およびトラックの運行数が多く※⁵、特に需要が高まる季節はドライバーの確保が困難になる事態も予想されるなど、輸送能力の低下により消費者への製品供給が遅延するリスクが高まっています。今回、こうした社会問題の解決につなげるため、T2 が開発したレベル 2※⁶ 自動運転トラックを用いて製品を幹線輸送する実証に参画します。本実証を通じて、「物流 2024 年問題」への対応を強化することで、持続可能な輸送体制の構築を目指します。

※⁵ 経済産業省・国土交通省・農林水産省調べ「我が国の物流を取り巻く現状と取組状況」

（https://www.meti.go.jp/shingikai/mono_info_service/sustainable_logistics/pdf/001_02_00.pdf）

※⁶ ドライバーの監視のもとに行われる特定条件下での高機能自動運転

【実証概要】

〈日程〉2025 年 6 月～11 月の期間中、計 16 回（8 往復）を予定

〈場所〉関東・関西間の高速道路上の一部区間にて実施

〈6 月の実証ルートおよび日程〉

- 往路：麒麟ビール横浜工場→麒麟ビール神戸工場
復路：アサヒビール吹田工場→アサヒビール茨城工場
- 往路：サッポロビール千葉工場→サッポロビール大阪物流センター
復路：サントリープロダクツ宇治川工場→サントリー海老名配送センター

麒麟 （6月9日）	往路	アサヒ （6月10日）	復路
麒麟ビール 横浜工場  麒麟ビール 神戸工場		アサヒビール 吹田工場  アサヒビール 茨城工場	
サッポロ （6月12日）	往路	サントリー （6月13日）	復路
サッポロビール 千葉工場  サッポロビール 大阪物流センター		サントリープロダクツ 宇治川工場  サントリー 海老名配送センター	

〈6 月の積載物の一例〉

左から、アサヒ「アサヒスーパードライ」、麒麟「麒麟一番搾り生ビール」、サッポロ「サッポロ生ビール黒ラベル」、サントリー「サントリー クラフトボス ラテ」



〈役割〉

- ・T2：全体マネジメントおよび実験用車両の提供
- ・4 社：実証貨物の提供および積載

〈検証内容〉

- ・貨物を積載した幹線輸送における自動運転の走行ルート、走行リードタイムおよび物流品質の検証※7
- ・想定したオペレーションパターンの有効性検証

※7 すべての実証はドライバーが乗車し、レベル 2 相当で実施

（本件お問い合わせ先）

麒麟ホールディングス株式会社 コーポレートコミュニケーション部
東京都中野区中野 4-10-2 中野セントラルパークサウス TEL：03-6837-7028 E-Mail：kirin-cc@kirin.co.jp

（お客様お問い合わせ先）

麒麟ホールディングス株式会社 麒麟ビールお客様相談室（フリーダイヤル）0120-111-560
企業情報 Web サイト <https://www.kirinholdings.com/> 商品・サービス情報 Web サイト <https://www.kirin.co.jp/>